

会 報

88号



函館の歴史的風土を守る会
会報編集部

発行所 函館の歴史的風土を守る会
事務局 函館市五稜郭町43-9
五稜郭タワー株式会社内
電話(0138)51-4785
印刷所 旬三和印刷 電話 45-0845

大会旗は横浜市へ—— 函館大会終わる



全体会議を終えて…函館市地域交流まちづくりセンターで

“開港五都市景観まちづくり会議—2013年函館大会”は他4都市74名、当市95名計169名参加のもと、9月7日～9日に開催された。

幸い天候にも恵まれて、企画した分科会も無事終了した。大会初日のウェルカムパーティで、“はこだてのお・も・て・な・し”を発揮し遠方よりの参加者と交流を深めて、大会旗を横浜市へ引継いだ。

平成5年(1993)神戸大会を第1回とし、各都市をめぐる五都市会議は今回で、第19回目、函館は4巡目である。歴風会は第1巡目より正・副実行委員長として参画してきた。今年度は次なるステップである「五稜郭世界文化遺産登録期成会」の立ち上げをめざしての一步をすすめよう。

今こそ「歴風会」の真価を！

函館の歴史的風土を守る会

会長 佐々木 馨



「歴風会」に対する日ごろのご理解とご支援に心より厚くお礼申し上げます。「歴風会」の昨年と今年の動向をかいつまんで申し述べたいと思います。まず昨年の一大事業は、やはり、「開港5都市 景観まちづくり会議 函館大会」(2013年9月7日～9日)の開催でしょう。「歴風会」としても実行委員長く佐々木馨、副実行委員長く吉村富士夫として、その企画と運営に所管の函館市都市建設部都市デザイン課とともに参画しましたので、聊か多忙の年でありました。お蔭様で、「再発見! 「ひと」と「まち」をつなぐもの～開港と食とラボ～」をテーマに掲げた大会には、横浜市から17名、神戸市から18名、長崎市から10名、新潟市から29名、函館市から95名の都合169名の参加を頂き、空前の盛会となりました。分科会1の「開港と文化とまちなみ」、分科会2の「食とまちの個性くみりょく」、分科会3の「地域に広めるデザイン力」

の3分科会とも事例発表とテーブルトーク、ワークショップが程よくかみ合い、事例体験として「本家『バル街』」を体感できたことも多くの参加者から好評を得ました。そしてはこでて未来大学の全面的協力を得た分科会3は、地域と大学を切り結ぶ企画として他都市から高い評価を頂きました。当日のリアルな内容については、本誌の「参加記」をご参照下さい。実行委員会の発行・編集になる詳細な「函館大会の開催記録」もこの2月末に公開になりましたので、そちらもご覧下さい。

今年の「歴風会」が取り組むべき最大の事業は、なんと言っても先刻ご承知の「五稜郭世界文化遺産登録期成会」の旗揚げとその推進であります。五稜郭の世界遺産追加登録については昨年の「歴風会」の事業項目の一つに盛り込みましたが、「期成会」の立ち上げについては勿論今回が初めてでありますので一歩前進ということになります。その辺の事情について一言申し添えたいと思います。

一昨年の12月25日に昇天されたグロード神父さんのポーバン式城砦群に連なる五稜郭をフランスにつぐ13番目の世界遺産にという宿願を受けて、私は『日刊政経』(2013年夏季特集号)に「五稜郭公園城址の世界遺産登録」という一文を草しました。その中で、3つの取り組むべき課題を指摘しました。1つは、函館日仏協会との連携による学習会や講演会を通した市民への継続的な情報発信、2つは、ポーバン協会などとの人的交流や情報の共有、3つは、五稜郭が「本登録」ではなく「追加登録」であることの意味の確認であります。この一文をご覧になられた元北海道議会議員の輪島幸雄氏が、『日刊政経』の2014年新年特集号に「グロード神父の遺言」という論考を掲載されました。長年、神父さんと御交誼を持たれ、かつポーバン式城砦群と五稜郭について研究を重ねて来られた輪島氏のこの論考は、私ども「歴風会」の今後の動態を示唆する画期的な内容であった。氏はその中で、2012年1月6日付の『函館新聞』掲載の日銀函館支店長市川信幸氏による「需要創出を柱に成長戦略」と題するメッセージを紹介され、五稜郭の世界遺産登録は「北海道・北東北の縄文遺跡群」の登録とともに函館市の観光・経済活性化のために大事な事業であることを市川氏の提言として引用されている。輪島氏はこの市川氏の提言とグロード神父さんが生前に構築されてきたフランス本国とプザンソン市との重厚な人間関係を回顧されながら、一方では五稜郭の世界遺産登録に無関心に近い函館市の行政的対応に業を煮やされて、ついに「歴風会」に次のような宿題を課されたのです。

「函館の歴史的風土を守る会に対し改めて提案したい。(中略)築城150年の年を、取り組み推進初年度として、内外に向けたPR活動を強化するため、各界、各団体、市民を結集した仮称「五稜郭を世界遺産に追加登録させる市民会議」を立ち上げることだと思う。(中略)ぜひ、絶好のタイミングを生かし一歩踏み出して欲しい」

『日刊政経』2014年新年特集号より

この輪島氏の熱い期待とグロード神父さんの「遺言」を背に、私は2月21日の「第36回函館の町並みを美しくする新春チヤリティー・パーティー」の開催挨拶において「五稜郭世界遺産登録期成会」の立ち上げを表明したのであります。これを「北海道新聞」は全道版に、「函館新聞」は一面トップで報じられました。私ども「歴風会」は「期成会」の結成とその後の登録推進に向けて、ただただ歩を進めるしか道はありません。「歴風会」の会員の皆さんはもとより広く市民のご理解とご支援を切にお願い申し上げます。



ウェルカムパーティー



第1分科会

開港5都市景観まちづくり会議函館大会に参加して

運営委員 桜井 拓 郎



私は、仕事等の関係で一部日程のみでしたが、9月7～9日に開催された「開港5都市景観まちづくり会議函館大会」に参加しました。初日の7日は、五島軒の王朝の間で開催された「ウェルカムパーティー」から参加しました。5都市のご当地ソングの合唱では、「函館の女」に加えて、私も元新潟市民なので、新潟の皆さんと一緒に「新潟ブルース」まで歌ってしまいました。二次会は事務局の打合せに参加し、三・四次会は新潟市の皆様についていきました。三次会の元町「カフェやまじょう」には、新潟市の皆さんが20名以上も集まって熱気に包まれ、函館大会初日の夜は更けていきました。

2日目の8日は、分科会Ⅰ「開港と文化とまちなみ」に途中から参加しました。午後から、五稜郭電停から市電に乗り、箱館歴史散歩の会の中尾仁彦さんの説明を聞きながら、今年開業百年を迎えた函館市電の鉄道の旅を満喫しました。十字街で下車後は、二十間坂、大三坂沿いの伝統的建造物群の説明を受けながら、カトリック元町教会を見学しチェチリア合唱団による「グレゴリオ聖歌」の素晴らしい歌声に、心洗われる時間を過ごしました。八幡坂を下り、日本基督教団函館教会の見学でもパイプオルガンの演奏に癒され、清浄な一時を過ごしました。その後、NHK大河ドラマ「八重の桜」でも話題となった同志社の創立者・新島襄の渡航地碑などを見学し、函館市地域交流まちづくりセンターに戻りました。そして、夜はいいよ今大会の目玉、「バル街」。わが1班は、横浜市の松井さん、神戸市の村上さん、新潟市都市政策部長の池田さん、そして函館・歴風会の佐々木会長、柳田運営委員、桜井という超精鋭?メンバーとなりました。最初に向かった「祐鯨」は、残念ながら売り切れで終了していたものの、その後は「花かるた」、松前「矢野旅館」、「はこだてビール」、「みなとの森」、そして2回目ですと入店できた「ラ・コンチャ」と、皆様のご要望を一通り実現することができました。皆さん素敵なお方ばかりで、いつもの函館にしながら、夢のような別世界を味わうことができました。ありがとうございました。

最終日の9日は全体会議Ⅱに参加し、たまたま職場の代休日だったため、司会を担当しました。口べたな東北人としては気の重い役でしたが、締めくくりの全体会議も各分科会報告、代表者会議報告、大会宣言、そして横浜市への大会旗引き継ぎと、時間が溢れるほどの充実したものとなり、最小限の司会でも何とか務めることができました。

今回の函館大会では、街づくりについて多くのことを学ぶとともに、5都市の皆さんと交流を深め、大変充実した時間を過ごすことができました。5都市会議は年々盛大なものとなっており、今後も毎年参加したいくらいですが仕事があるためそうもいきません。定年退職したら、できれば毎年、参加したいと思います。最後に、大会のお世話をいただいた函館市都市建設部の皆様、本当にありがとうございました。



第2分科会



第3分科会



五島軒で**全体会議 I**の開会式(9月7日(昼))司会は小山(歴風会事務局長) 開催市代表として大会実行委員長 佐々木(歴風会会長)が挨拶しました。



ウェルカムパーティ(9月7日夜)

上図右は祝杯をする吉村副実行委員長(歴風会副会長) 左は神戸から参加した方々と共に神戸出身である中島未来大学学長も飛び入り“そして神戸”を一緒に歌うが不安そうに見る人も。



上は未来大学中島学長の基調講演『ITと大学とまちづくり』コーディネーターはNPOはこだての丸藤氏、講師には函館代表として清野(歴風会顧問)が発表しました。



画像で見る

景観街づくり会議 函館大会

2013年 開港5都市

函館大会は平成25年9月7日(土) 全体会議Iと夜はウェルカムパーティー共に五島軒で開催。8日(日)は3班に分かれ分科会。夜は「バル街」を体感等のハードスケジュール。9日(月)は各都市の代表者会議と全体会議IIが行われました。

運営委員 新城 光正



分科会3は“大黒湯”男湯内を起点に大学生と参加者で行うワークショップ下図は大黒湯・富樫邸・松原邸で内部も見学しました。

明治40年に開業の大黒湯



富樫邸

松原邸



夜は旧市街のバル街へ



第27回 函館野外劇「星の城、明日に輝け」公演



NPO法人市民創作函館野外劇の会

理事 事務局長 里見 泰彦

縄文の時代から現代まで、函館および道南地方の歴史をふり返る時、そのダイナミックともいえる展開に心が沸き立つのは私たち函館人だけではないようです。今から約50年前、函館に足を踏み入れたフランス人宣教師フィリップ・グロードさんもその一人でした。

百万年前は火山、その後の歴史展開も石器・縄文時代から松前藩の誕生、江戸期の繁栄を経てペリー来航と開港、五稜郭築造、箱館戦争、文明開化、大火と復興、北洋船の隆盛、第二次世界大戦の空襲など、目もくらむような歴史展開。

グロードさんは生まれ故郷で大人気のル・ピディフ野外劇を思い出し、五稜郭でこれをやろうと思いつき市民有志とともに活動を始めました。光と音を駆使した市民創作函館野外劇の始まりです。

道内には夏を彩る多くのイベントがありますが、市民の手づくりという点ではおそらく右に出るものがないでしょう。きびしいオーディションに合格した精鋭が半年間の厳しい稽古を経て登場する舞台は高い完成度。数々の受賞歴がそれを物語っています。

週末を利用した稽古は劇団四季のOBの薫陶を受けたベテラン陣が当たります。

上演時間は75分。桜樹を縫って馬が奔り、堀の中には船が往来、箱館戦争では大砲が火を噴き、土方歳三が凄絶な殺陣を披露する。臨場感あふれる場面展開に息つく暇也没有。

今年の公演は、五稜郭築造150年および青函交流25周年を記念して上演されます。

函館の夏の夜は、五稜郭を吹き渡る風の中で、ぜひ函館野外劇でおすごください。



歴風会新会員の募集

当会では、新会員のご入会を募っております。

会費は年会費として

- ・個人会員会費 3,000円
- ・個人学生会費 1,000円
- ・団体会員会費 5,000円

多くの方のご入会を心よりお待ちしております。

平成25年度 歴風文化賞 (第31回)

原風景 = 宣言文 =

旧戸井線のアーチ橋

函館市

昭和12年に函館から戸井までの30キロを結ぶために着工された旧戸井線。

工事は海岸の急斜面を切り開き行われたが、後数キロというところで中断されたことから幻の鉄道とも呼ばれている。

旧戸井線の線路を支えるはずであったコンクリートのアーチ橋は、現在でも産業遺産として我々に大きな存在感を示している。

昭和初期から現在までの長い歴史を刻んだ「旧戸井線のアーチ橋」は函館の原風景であることをここに宣言する。



保存建築物

長崎 ミサ邸

ながさき

函館市神山3-16-12

長崎 ミサ 様

長崎家の初代は18世紀に長崎から来道、農業を行い神山地区の開発に貢献した。

この建物は茅葺の建物だった農家住宅を昭和21年に建て替えたものである。

木造平屋建の外観は切妻瓦葺の屋根と玄関上の唐破風屋根、細工を施した外壁、レンガ積みの集合煙突等、しっかりと創建時の姿を残している。屋根瓦は当初セメント瓦だったが、耐久性を考えて十数年前に焼瓦に変更している。

室内も農作業の休憩等に使われたという広い玄関を始め、茶の間、仏間、縁側等の室配置は基本的に創建時のままである。また構造材である大黒柱、頑丈な梁等もこの建物の風格を醸し出しており、建具、欄間、調度品等も綺麗な姿で保存されている。

この建物は創建当時の姿でしっかりと保存されており、昭和前期における函館市神山地区の農家住宅の歴史を知る上で貴重な建築物である。

保存建築物

料亭 富茂登

ふもと

函館市宝来町9-7

尾形 有司 様

この建物は昭和10年代初期に木造2階建の料亭として建築された。その後、料亭「小鶴」「光風館」「青井」と引き継がれ、昭和55年に現持主が所有し現在に至っている。「富茂登」の名付け親は作詞家の高橋掬太郎である。

グリーンベルトに面した料亭正面は瓦を載せた塀のように見える外壁と入口の板戸が落ち着いた雰囲気漂わせている。

和風の庭から玄関に入り廊下を進むにつれ、昭和前期の歴史ある雰囲気が伝わってくる。室内は和風の間に5室あり創建時のまま綺麗に保存されている。室名はそれぞれの室の特徴を表現し「松島」「羽衣」「萩」「臥牛」「竹」と名づけられており綺麗な和風の庭園を望むことができる。

近年、昭和の大火直後に建てられた市内の料亭は取り壊され、ほとんど姿を見ることができなくなった。

この建物は外観、室内共、創建時の佇まいをしっかりと残しており、昭和前期の函館の商業建築の歴史を知る上で貴重な建築物である。



再生保存建築物

久末 宏治 邸

ひさすえ こうじ

函館市石川町255-1

久末 宏治 様

この建物は昭和20年代前半に建てられた木造平屋建の農家住宅である。

現所有者は平成17年に歴史的な農家住宅の保存を目的に、この農家住宅を引き継いだ。

外観は創建時のイメージで、室内は構造材等の基本的な部分はそのままに農家住宅の再生を行った。屋根はセメント瓦と軒先の焼瓦、外壁はささら子下見板張りとな部の薄茶の漆喰塗りで創建時の姿を再現している。

室内は今後の使い方も考慮し内装材等の変更を行っているが、柱、梁等の構造材は創建時のままである。

この建物の立地は石川地区の交通量の多い幹線道路に面しており、車窓から望む姿からは昭和前期のほのぼのとした雰囲気が伝わってくる。

創建当時の姿でしっかりと再生保存されており、昭和前期における函館市石川地区の農家の歴史を知る上で貴重な建築物である。



個人賞

鎌倉 健二 様

かまくら けんじ

北斗市七重浜8-8-32

北斗市立大野小学校教諭



1991年、旧南茅部町立磨光小学校、1997年、旧上磯町立上磯小学校、2008年、現在の北斗市立大野小学校に勤務。

磨光小学校では「前浜学習」の見直しと更なる展開、上磯小学校では総合的な学習における「地域学習」の展開等、地域と密着した教育を実践した。

大野小学校では、2009年「意富比神社」、2011年「大野郷土史かるた」、2012年「北斗市郷土資料館」を教材として取り上げ、その成果を学習発表会で劇の上演により児童、保護者等に広く披露している。

特に大野小学校では劇の脚本作成、指導等を手掛け発表することにより、保護者、地域住民へ大野地区の歴史、文化の認識を深めることにもつながっている。

鎌倉健二教諭のこれまでの各地で実践してきた「地域に根ざした教育」を高く評価する。

歴風文化賞選定基準

1. 建造物自体の貴重性
2. 持ち主が長年保存への努力を続けている
3. 景観への寄与
4. 歴史的性
5. 地域の町並みや社会全般への波及効果が大
きい
6. 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である



実行委員長あいさつ

里 見 泰 彦

(NPO法人市民創作函館野外劇の会 理事 事務局長)

函館野外劇の会で事務方をさせていただいております里見と申します。このたびは、青天の霹靂と申しますか、思いがけない大役に少々戸惑ってはおりますが、函館のことを良く知るきっかけになればと思いはなはだ僥越ながらお引受けした次第です。

じつは私はこちらでの生活たった13年という、まさしく函館駆出し者です。仕事で平成13年に赴任して以来、なぜか函館が好きになってしまいまして、仕事を卒業してから夫婦でそのまま住み着くことになってしまいました。

なぜ、私たちがここに住むようになったのか。明確な理由は無いのですが、思い当たることをあげてみますと、本州と比べて夏が格段に涼しいこと、冬の寒さもそれほどではないこと、住宅コストが比較的安いことなどがあげられそうですが、本当は多くの友人知人にめぐまれたことではないかと思っています。けっして、函館山夜景でもなく、イカ刺しでもなく、和洋折衷型の街並みでもないのです。もちろんこれらはこれで素晴らしいのですが、街が人を呼ぶ時、何が決め手になるか、突き詰めていくとそれは人に行きあたるように思います。観光という分野においても、最終的にはおもてなしの心に満ちた人たちが溢れているところにはかなわないような気がします。

「函館の歴史的風土を守る会」が追い求めているものも、建造物や風景に名を借りてはいますが、種を明かせば褒められているのは人だったということなのではないでしょうか。自らの建造物に心を吹き込むかのように大切に育ててこられたわけで、そのご努力は誠に立派と言わざるを得ません。この心意気が函館の街にとめどなく伝わっていくよう心から願っています。

本日のパーティも、そのような函館らしさについて色々お話しいただく機会になればと願っています。

観光客の延長線上にいる一移住者からの意見ということで、はなはだ簡単ですが実行委員長のあいさつに代えさせていただきます。

副実行委員長あいさつ

田 島 優 子

(株)アークURK環境設計研究所)



チャリティー・パーティの実行委員会を代表して、ご挨拶させていただきます。

挨拶は、特に閉会の挨拶は、短い程喜ばれると聞いたことがあります、何とか皆様に喜んでいただけるご挨拶ができれば・・・と思っておりますので、今しばらくお時間を頂戴いたしたく、よろしくお願いいたします。

まず本年度の「歴風文化賞」を受賞されました皆さま、本当におめでとうございます。

歴史が重ねられた建物を、保存し活用していくということには、端からは何い知れない、さまざまご苦労があったことと思います。今回の受賞が、そのご努力に少しでも報いることができるものであれば、これ程嬉しいことはございません。

そして、チャリティー・パーティにご参加くださいました皆さま。このように沢山の皆さまがお集まりくださり、支えてくださいましたお蔭で、今回も盛大に、そして和やかに「新春チャリティー・パーティ」を開催することができました。本当に、ありがとうございました。

以上で私からのご挨拶とさせていただきますが、皆様お喜びいただけましたでしょうか？もし、短くてとってもいい挨拶だったと思っていただけましたら、是非来年もご参加くださいますようお願いいたします。また、そうとは思えないと思われた皆さまも、来年に期待して、是非、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

さらに、今回受賞されました皆さまも、来年はお祝いする側に立っていただければ幸いです。

皆さまの、ますますのご活躍とご健勝をお祈りしつつ、ご挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。



表 彰 式



会 場 の 風 景

受賞者代表謝辞

北斗市立大野小学校 教諭 鎌倉 健二様

受賞者を代表し、一言ご挨拶させていただきます。

今回受賞された、保存建築物二点、再生建築物一点、原風景一点は、函館の貴重な財産です。このような素晴らしい賞の一端に、私のような若輩者が表彰していただき、不安とともに、大いに感謝しております。

私は、子どもたちに、生まれ育った故郷を大切に、そして誇りに思えるように、地域の歴史や文化、人物を取り入れた学習を行ってきました。その一端をご紹介します。現任校の大野小学校では、「意富比神社」では箱館戦争が行われ、イチイの木に当時の鉄砲玉がいまだに埋まっていること、「大野郷土かるた」では、かつて大野にカールレイモンさんの店があり、動物園を開設し子どもたちに人気があったこと、「北斗市郷土資料館」では、生活綴り方の先達「木村文助校長先生」を取り上げ、明治期の子どもたちがどのような思いを抱いて生活し、その思いを作文にしたかを。

中学卒業後、あるいは高校卒業後、故郷をあとに日本あるいは世界に旅立つ子どもたちが多数いることでしょう。そうした子どもたちが、その地で、大変な状況に陥ったときに、故郷を思い起こし、その後の人生を生き抜いていけるような教育を、今後さらに精進を重ねていきたいと考えております。

最後になりますが、歴風会様の今後のさらなる発展と、今日ご参加いただいております皆様に敬意を表しますとともに、篤くお礼を申し上げます。本日は、誠にありがとうございました。



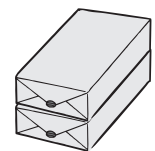
贈呈



はこだて賛歌の合唱



チャリティパーティのビンゴ商品のご提供
ありがとうございました



第35回函館の町並みを美しくする新春チャリティパーティへの景品のご提供に御礼申し上げます。

五稜郭タワー(株)、(株)五島軒、函館山ロープウェイ(株)、函館トヨペット(株)、(株)青函設備、(株)オオタカ
函館、やま内科胃腸科医院、中島孝内科胃腸科医院、POPくらぶ、ギャラリー杉本、花かるた、みかづき
工房、原田組、カーショップ・ニシノ、(株)福田海産、旧相馬邸、(有)三和印刷、(有)タカオ工業、今整形
外科、金森商船(株)、NCV(株)ニューメディアセンター函館、(株)マークスBMWモーターレン函館、北海道
コカ・コーラボトリング(株)、(株)元町マリンハウス、料亭 富茂登、(株)アークURK環境設計研究所

(歴風会会員) 佐々木 馨 吉村富士夫 新城 光正 対馬 誠 石井 満 桜井 拓郎
安井 徹 原谷 紀昭 今 千尋 高嶋 協子 斉藤 光子 小山 直子
対馬 栄子 我満 陽子

※記載もれがありましたらご容赦ください。(順不同・敬称略)

第11回 ふるさと写真展開催



【家族もいっしょに受賞者記念写真】

運営委員 新城 光 正

今回で11回目を迎えた写真展、応募総数は81点と昨年より少なかったのですが、函館を象徴する素晴らしい作品がたくさん集まりました。

“札幌雪祭り”と同期間中の開催で本州からのカメラを抱えての観光客の方々が、作品を見て場所がどこにあるのですか、どこにゆけばこの写真のスポットが撮れるのですか、等の問が数多く寄せられていました。

今回は函館市の企業局からボールペン等の寄付を貰い、参加した全ての方に副賞が当たりました。

又影で作品の応募や連絡など手助けしてくれた五稜郭タワーさんにも感謝申し上げます。



【会場の風景】



【表彰式の模様】



【金賞】坂本 裕貴くん



【歴風会長賞】窪田 みゆさん

《入賞者氏名》(敬称略)

▶金 賞	坂本 裕貴 (青柳小5年)	〔教会と連絡船〕	
▶歴風会長賞	窪田 みゆ (昭和小4年)	〔ダムと紅葉と噴水の虹〕	
▶企業局長賞	窪田 みゆ (昭和小4年)	〔ササラ電車と雪げむり〕	
▶銀 賞	窪田 頼人 (昭和小2年)	坂本 裕貴 (青柳小5年)	砂原希乃風 (中の沢小3年)
	肝付 凱帆 (ラ・サール中1年)	青山幸太郎 (ラ・サール中1年)	
▶銅 賞	吉本 有秀 (三育小6年)	宮原 耀一 (駒場小5年)	小野 祥生 (千代田4年)
	安倍 佑 (亀田小4年)	砂原由妃乃 (中の沢小5年)	水澤 健太 (光成中1年)
	肝付 凱帆 (ラ・サール中1年)		
▶佳 作	菅 真優羽 (本通小2年)	吉本 有秀 (三育小6年)	児山つばさ (七重小6年)
	田村 正幸 (桔梗小4年)	米澤奈々珈 (上磯小3年)	福澤ここの (青柳小5年)
	砂原由妃乃 (中の沢小5年)	山田 康博 (ラ・サール中3年)	五十苺友那 (大野中1年)
	窪田 海人 (亀田中1年)		

2013年度 学 習 会

運営委員 小 山 直 子

●北方歴史資料館見学会 8月21日(水)

高田屋嘉兵衛の貴重な資料を展示していた北方歴史資料館が、様々な事情で閉館することになりました。そこで、館長の高田奈々さんと紺野哲也さんに貴重な資料についてお話を伺いました。北方歴史資料館を存続させることができず残念な結果になりましたが、教育委員会との話し合いの場を持ち、今後も資料をお借りし活かしていく、資料の保管環境が整った場合は市で保管したいとの方向性が確認できました。

新年度には、高田屋嘉兵衛についての功績を市民の皆さんに知っていただく講演会を実施したいと考えています。

●南茅部地区見学会 9月23日(土)

昨年の北斗市見学に続き、今回は南茅部地区の見学会を実施しました。

縄文文化交流センターでは、学芸員の方に縄文時代早期から晩期までの7千年間の豊かな文化について説明をいただき、国宝の中空土偶もじっくり見学しました。縄文時代の自然との共生の精神を学びました。

その後、大船遺跡と平成23年に保存建築物として歴風文化賞を受賞した「二本柳旅館」を見学させていただきました。二本柳旅館は、歴風文化賞を受賞後も旅館として使われており、更に今では美味しい手打ちそばが食べれる店としても頑張っています。



●弁天台場の学習会 11月22日(金)

開港5都市函館大会終了後に、神奈川台場の保存を進めてきた方と交流する機会がありました。そこで、函館にある弁天台場について学習しようということで、博物館の保科智治学芸員に説明をしていただきました。弁天台場は、ほとんどが函館どっくの敷地内にあり、掘り起こして保存するのは難しいようです。弁天台場は五稜郭奉行所の設計でも知られている武田斐三郎によるものであり、海に造るということもあり、かなり強固で精密な造りでほぼ設計通りできているそうです。

資料説明の後、博物館内を見学させて頂き学習会を終了しました。

●東北以北最古のエレベーターを機材にした授業実施報告 12月28日(土)

佐藤和敏会員による授業実践を発表してもらいました。まちづくりセンターにある歴史的にも貴重なエレベーターを教材とした授業ですが、古いエレベーターについて学ぶだけではなく、現在のエレベーターとの違いを理解させたり、そこから発展して未来のエレベーターを生徒に考えさせる授業です。現在の技術を学ぶだけではなく、技術史を大切にしたい授業の重要性に触れる機会となりました。

エレベーターの技術について、新城さんや吉村さんからも補足説明があり有意義な学習会となりました。

(故) 林 功 運営委員を偲んで

相談役 落 合 治 彦

◇ いつも運営委員会の一番最後に発言を求め、その一言一言が核心をつく正論であったから、ゆるみかかった空気がピリッとしました。他に印象に残ったことを話すと……

◇ 歴風会のPRに徹した事

市役所・図書館・町センその他掲示許可のとれるあらゆる機関に“れきふう”と入会申込書と会則をセットにして配置し、チャリティの資料にも同封することを力説され、自らも会報をコピー復刻して実践されました。

◇ リュックを背負って

毎月の運営委員会はもとより、見学会、勉強会等にリュックを背負って参加された。特に市デザイン課主催の「見て、聞いて、考える町並み」の西部地区探訪には、歴風会派遣の講師陣の1人として毎回参加されました。

第11回を越えた「小中学生による、ふるさと写真展」では、新城会員と名コンビを組みその残されたメモは会の貴重な記録です。

特に感銘深いのは、会報担当の私に、写真展入選作品は応募者への礼儀として、作品のテーマを必ず記入する様アドバイスを受けたことが昨日のように思われてなりません。

チャリティーでは常に受付やビンゴ景品整理等を率先してやって下さった。本当に歴風会の鏡とも云うべき人でした。

今思うと、最後にお目にかかった運営委員会で、何となくお顔にムクミがあり、ケアキャップを常用されているのが気になりました。

12月12日、突然の訃報に、只々驚愕し、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。



在りし日の林氏

会 務 日 誌

H25. 5. 17

平成25年度総会

H25. 8. 21

北方歴史資料館見学会

H25. 9. 7～9

開港五都市景観まちづくり会議函館大会

H25. 9. 23

南茅部地区見学会

H25. 10. 21

北方歴史資料館長と市教委訪問

H25. 11. 22

弁天台場の学習会 市立函館博物館

H25. 11. 18

第1回チャリティー実行委員会

H26. 2. 21

第36回チャリティーパーティ

H26. 2. 22

函館日仏協会講演会への参加

※※ 編 集 後 記 ※※

◇ 本号で88号を迎えた。人間で云えば88才の「米寿」で、おめでたい数字である。

これを機に“れきふう”の編集は雄谷運営委員にバトンタッチとなる。永い間のおつき合いに感謝し、今後の紙面に乞う！ご期待！

◇ 去る2月21日、歴風会のメインイベントのチャリティーが終わった。辰村相談役の発案でビンゴが取り入れられて3年目、参加者にも定着してきた。

◇ ビンゴゲームは単なるゲームではない。そこには沢山の商社や個人が、函館の町並みを美しくす

るために快く協賛して下さる御理解の賜であり、同時に歴風会へのエールでもある。このことを真摯に受け止めてこれからの運動をすすめるための“れきふう”をめざしたい。

◇ 開港五都市会議に横浜市から参加された野渡圭一氏が、開港地の防備として築かれた各港の台場に注目され、台場サミットを提唱され、函館会議の最終日、自らの神奈川台場の調査体験談を聞く会合を歴風会有士と持った。席上、氏は弁天台場の調査保存を熱っぽく説かれた。

◇ 本号の写真は函館市デザイン課、上田邦孝氏、築地晶二氏、新城光正会員、桜井拓郎会員によった。

(文責 落合治彦)